

平成 28 年度協働事業負担金（継続）審査会コメント

平成 27 年 11 月 18 日 基金審査会

● 障がい児通学支援協働モデル事業（横浜移動サービス協議会）

【高橋委員】 発表のあとに、いろいろ追加の提案をさせていただいて、関係機関とのコミュニケーションが、非常に、密にできたのではないかなというところも踏まえて、この事業はたいへん素晴らしいと評価しております。障がい児者の社会自立に向けて移動支援の力があるかないかというのは、自立の可能性、社会の選択肢を大きく増やすものと期待されます。障害者総合支援法内にある移動支援事業が市町村事業に位置付けられておりますが、その財源も昨今厚労省が一定の指針を出したように、その財源の厳しさが顕著に感じられる中、今後は市民力を育て広げることも含めて、とてもこの事業の重要性を感じています。

先日、保護者を巻き込む、育てるといふようなところにこだわったのは、この事業の主としても障がい者本人の選択肢を増やすということが何より大事でありますし、親亡きあとの安心した暮らしを考えるにも、どこまで親がやって、どの段階で手を離し地域の方の力を借りながら、見守ってもらいながら生活をしていく環境を作るか等が非常に重要になるからというエールも含めてお伝えしました。いろいろとノウハウ集というのも、今年、知的障害者見守り支援のためのノウハウ集、この完成からの発展というところに期待します。

また、このあと狭間のニーズという調査をやられるということで、ここら辺にも難しい課題、保護者が送迎できない、また、肢体不自由、視覚、聴覚の障がいがある方などのところの課題を踏まえて休まずに学校に行くためのノウハウを作られるというところにぜひ期待をしてがんばっていただきたい。この事業は非常に市民力というところもあります、なかなか難しいところもあると思うので、協働というところをしっかりと活用されて、特に、県の方や神奈川県の方を窓口にしなから、学校がすでに持っている社会支援というものをどんどん積極的に紹介・活用されていったらいいのではないかと思います。今後、さらに期待を込めてお伝えするのは支援学校さんへの支援やアンケート調査が主としてあるのかなという風に見られたのですが、いま国の流れとしても地域で子どもたちを育てるといふ考え方がありまして、支援級というところから支援学校に流れるというところまで、できたら支援級の調査や保護というのもそろそろチャレンジしていただけたらありがたいです。最後になりますが工程の中にある多くの人への理解や呼びかけに関しましても、県との協働というところをさらに活かして、部門を超えた積極的な声かけというのをやって

いただきながら、よりこの事業の発展をしていただけたらと思います。

● 神奈川県内ことばの道案内作成・提供事業（ことばの道案内）

【小松委員】 ことばの道案内の皆様、継続おめでとうございます。この団体、みなさんに関してこの場で生意気なことを申し上げるのは私も今年で3回目。今回、結果として初めて減額をお願いしました。140万円程です。これは、今年度お作りいただいたユニバーサルマップ、目の不自由な方だけでなく、より多くの高齢の方などに使っていただこうと、これ実は審査会の方からの提案したものでしたが、包み隠さず申し上げますと先月の10月のプレゼンテーションで現物を見て効果という点で疑問が出たというのが正直なところですが、但し、それをどこかにほっとくということではなくて、もう一年かけて完成させていただいて有効に活用していただきたいということをお願いしたい。これが減額の理由であります。

さらに皆さんに期待をしておりますのが、「ことばでわかる駅情報」。これは来年から新規ですが、いままで「ことばの道案内」という音声で道案内をする地図というか、目の不自由な方用の目印として、たとえば歩いているときにカレーショップがあつて匂いがする。これが目の不自由な方には重要な情報になる。私も同行させていただきましたが、驚くことばかりでした。ただし気になっていたことが駅の中。鉄道事業者にも協力をいただき、いよいよ改札からではなく、電車を降りたところから、活動が広がるかなと思います。

ことばの道案内の代表の古矢さんから前に伺ったことがあります。この方も目の不自由な方なのですが、「自由に歩けること、自由に行動できることは心の解放につながる。」ということをおっしゃっていました。まさしくそうかなと思います。来年も成果に向け期待しています。

● 特命子ども地域アクター事業及び子どもまちづくり基金の設立（ミニシティ・プラス）

【長坂会長】 ミニシティプラスについてお話させていただきます。今年度は申請額をそのまま認めさせていただきました。

事業1ですが、特命子ども地域アクタープロジェクトは、地域のまちづくりの課題を解決するため公募で集まった中高生を特命でまちづくり団体に派遣し活躍していただく。そういう仕組みを作る事業でございますが、まちづくり団体の募集と特命子ども地域アクターの募集、アクターの団体への派遣・マッチングですが、順調に事業が行われ、実施を積み上げてきていると評価できると思っております。特に商店街活動への派遣は、商店街の活動に貢献しているようで、今後、派遣希望を持つ地域がさらに増えていく可能性があると思っております。

の商業流通課から指摘されています。

他方、課題としては、協働部署から指摘されている点としては、高校生の参加を促進するための教員へのPR不足、県下市町村のまちづくり担当部署への啓発が不十分、などが挙げられておりますが、この点につきましても事業実施にあたり今後取り組んでいきたいとのことで、期待しております。さらに、広報をさまざまな形で大いに活用しておられる、というところがとても評価できると思っております。

他方、事業2の方ですが、子どもの社会参画を推進するための基金の設立という事業。当初計画していた基金積立ての方式ではなく、公益財団法人かながわ生き生き市民基金の仕組みを使って、この財団の助成プログラム「エラベル」への参画によって実施することになったとのこと。この点で本事業は一応目途がついたということになりますので、本事業は終了と考えられますが、審査会としては、この仕組みを作り上げるまで、この支援をもう一年続けさせていただきたいと考えております。つまり、来年度については申請どおりお受けするわけですが、再来年度については採択しないことといたします。来年度も支援させていただく理由につきましては、かながわ生き生き市民基金の活用による仕組みの構築と展開をしっかりと見届け、学ばせていただきたいということと、新しい子どもまちづくり応援事業としてこうした新事業の実施が機能するのかがどうか関心をもっております。つまり5年間の事業実施後の展開について見据えているということで、他のところでも展開できる仕掛けかもしれないという風に考えております。もう一つ、基金21としても注目しております中間支援機能の充実支援にもなる、ということでどういう展開になるのかということに強い関心を持っています。

この基金につきましては、基金ではありませんので事業の名称を変更していただく必要があると思います。そういう意味では、事業2については来年度限りではありますが、しっかりとモデルができあがるように力強い展開をお願いしたいと思います。事業1につきましてもこれからの展開をととても楽しみにしています。よろしく申し上げます。

● 神奈川県の子育て支援施設における子どもの自立支援事業（JAMネット）

【佐藤委員】 おめでとうございます。

児童養護施設で暮らしている子ども達は限られた環境の中での生活を余儀なくされています。そのような子どもたちに対して、他者との信頼関係の構築と自己肯定感の獲得のためにコミュニケーション力の育成を行うというこのプログラムは、将来児童養護施設を出て自立した生活を送るための基礎を作り上げるものと期待できます。この申請は2年目のものですが初年度に県内の

児童養護施設を訪問し、この取組について説明をし、さらにトライアルプログラムの実施により、このプログラムにふれた施設からフルプログラム実施の要請があったことから、その要請に応えようとした結果、初年度よりも多くの自立支援プログラムを実施するものと理解しています。それはこのプログラムが多くの施設にとって有効であると認識されている証拠です。今後も成果が期待できると思います。

今回は、申請された予算よりは 68 万 3000 円削減という形になりましたが 1 年目よりは拡大しています。必要な人的資源を確保して持続可能な支援モデルを構築されることを期待いたします。おめでとうございます。

● 性的マイノリティの子どもに理解のある支援者育成事業（ReBit）

【長坂会長】 予算額について、上限を前年度と同じとすることで採択させていただきました。ReBitの活動というのは皆さんもご承知のとおりLGBTについての注目が非常に高まっている中で、性的マイノリティに関わる課題というのは大きな社会的関心にもなっています。その社会的関心の高まりを受けて初年度はLGBTの啓発普及に関わられたと理解しています。その点でも今年度から基金21の支援対象とさせていただくことによって、特に神奈川県ではあまりネットワークのない状態から、県内でのネットワークの広がりにつながったのではないかと考えております。

この基金21協働事業負担金が、ReBitの事業に期待しておりますのはLGBTの啓発を通して支援者・理解者を増やす、性的マイノリティの人々への支援を充実させるということももちろんありますけれども、私たちが当初から強く期待しておりましたのは「就労支援」という点であります。その意味で昨年度の採択のコメントでも就労支援をさらに充実、重点化するように事業の再構成をお願いしたいということを申し上げたわけですが、残念ながらこれまでのところ就労支援にかかわる取組というのは計画どおり成果を挙げていないように思われる面があります。新しくご検討いただいた再構成・提案書の修正をお願いいたしましてその中の文章の中に成果についてもLGBTが自立し生活就労できる基盤が作られると書いてあるのですが、私たちが期待しているのは基盤を作るための広報とかいろいろな研修とかをするのも重要なのですが、さらにそこから出て行って、企業とコンタクトし、具体的にLGBTの方々の就労支援、つまり具体的な成功事例、マッチングとかそういう就労支援まで到達するような事業展開と成果を挙げられることを私たちとしては就労支援という言葉の中に込めていまして、そこまで踏み込んでいただきたいと考え

ている次第です。申請団体がLGBTやキャリアカウンセリングについて専門性を有したスタッフを抱えていると理解しておりますし、担当課との協働という視点からこの団体が協働事業として行うべき課題を見据えて事業に取り組まれていることを期待しております。就労支援というのは講座だけではなくて、キャリアカウンセリングだけでもなくて、つまり来ている人たちを待つというだけでなく、やはりアウトリーチをする、足を運ぶ、それは企業に対してですが、そういう泥臭い部分も活動においては、就労支援においてとても重要なことだと考えております。そういう意味で修正案をいただいたものについても審査会としては必ずしも期待したものになっていないと認識をしております。しかしこの事業の重要性を考えてもう一度この点について、協働部署と検討していただいでですね、本格的なとか体系的な就労支援プログラムを再度検討していただきたい。予算としても前年度の上限の中で考えていただきたいと考えております。

もうひとつ、私たちがとまどった点は、去年・前年度に比べて今年度の事業単価がとても高くなっていることです。講座一回の単価が高くなっております。これは、誤解を招く恐れのある言い方かもしれませんが、普通のビジネスであれば内容の充実に基づいて支払うということは、当然考えられるわけですが、私たちのこの事業はボランティア精神に則って、その精神を踏まえるということ、お互いの信頼感でこれを作り上げて、市民の公共的な事業を育成していくことを目的といたしますので、基本的にビジネスの世界では適当でありうるでしょうが、本基金の事業にはなじまないという感じを審査会としては一般的に持っているということをお伝えしておきたいと思えます。単価についても私たちの事業の精神というのも皆さんの税金でできあがっており、通常のビジネス感覚と同等ではありませんので、そのうえでご検討、再考をしていただけるとありがたいと思えました。

かなり厳しいことを申し上げているかと思いますが、どうかご検討いただくことを期待しておりますが、もしご無理なことをお願いしているとすれば、と言いますのはReBitという団体それ自身はそういう事業ができる能力を持っていると思いますが、いまは社会的に注目されていて、いろんな講演依頼などが全国から殺到していてもものすごく忙しいのではないかと、ですから就労支援という事業に人材を割けないのではないかと。この事業は私たちとReBitにとっては、未来を作っていく仕事になるのではないかと考えているのですが、ReBitにとって時間的にはとても無理があるということであれば、ReBitの活動が落ち着くまで、しばらくの間休憩をしていただいで、同時にその間の新しい問題意識を踏まえてもう一度継続の申請をしていただくと手もあるかと感じております。本基金の成り立ちをご理解いただき、そういう意味

で協働部署と再度就労支援に対してどのような仕組みを作り取り組んでいくのかを議論、検討していただいて、その中から事業計画を新しく作り上げていただければと考えおります。この事業の重要性は言うまでもありませんので、審査会としては、前年度と同額を上限に採択をさせていただきたいと考えております。が、只今申し上げましたことを勘案いただき、ご検討いただきたいと思います。どうか宜しく申し上げます。

● 若年性認知症専門支援モデル構築事業（ぐる一ぶ表）

【小松委員】 おめでとうございます。皆さんの取組みは、目的が非常に明確でありわかりやすい。誰でもわかるということ。私も年齢的に他人事とは思えないので皆さんの取組みに注目させていただきたいと思います。申請どおりに事業を実施していただければと思います。

その中で、注文といいますか、お願いと言いますか、審査会の中で出た意見を述べさせていただきます。

一つの目標として、デイサービスとショートステイを団体内で完結させるのが一つの目的だと。その理由としては融通が利く、日程的な話ということですが、それだけではなくて、完結する以上、何か付加価値を設けられる。じゃ、それは何かというと「うーん」ということなんですが、ぜひそれを考えていただきたい。それからショートステイは、家族のケアだというような、まさしくそうだと思う。ただしやっぱり、認知症の方というか、この場合、主人公と言ったら変ですが、中心はその方だということで、ぜひそういう取組みをしていただきたいということです。それから予算のところでは指摘をさせていただきましたが、6年目以降について、別の団体のときも申し上げましたが、5年で終わりではない。6年目以降も進められる、事業化できるような予算を毎年毎年考えていただきたい。なかなか実態の把握も難しいだろうし、対象の方が点在をしているというようなことで、ひとつにまとめあげるのも厳しいかと思いますが、継続は力なりと言いますように、続けてこそということもあります。

それと、親の介護と、今の言葉でいうと「ダブルケア」という問題ですが、ぜひ、皆さんの仕事を広げ過ぎるのもどうかとは思いますが、「ダブルケア」というのはどこも対応していないという現状なので、ぜひぜひその辺りを先駆的に考えて、行政を動かすぐらいの取組みをしてくれたらなと思っております。

● 男女共同参画型防災ネットワーク「アクティブ防災」事業（MAMA-PLUG）

【佐藤委員】 おめでとうございます。

昔、学校の先生から言われたままの防災ではなくて、自分で考え自分で行動するという「アクティブ防災」を普及させていく事業ですね。とても素晴らしい事業だと思います。地震など自然災害が多い日本で必要とされている事業でありますし、かつ多くの需要があるものだと思います。また、防災ピクニックというユニークで参加者が楽しめる、楽しみながら防災を学べる事業をしていただいています。地域で自立して活動できるファシリテーターも育てています。今後の成長が期待できると思います。

申請額を前年よりも減らして申請してまして、これはまさしく先ほどのお話でも出ました将来的な自立に向けて着実に歩んでいると非常に高い評価を、審査会ではしました。

以上を踏まえて、申請額どおりの承認となりました。今後も事業の更なる普及に努めていただくようお願いいたします。本当におめでとうございます。

● 県内避難者との協働による支援ネットワーク構築事業（避難者と共にあゆむ会）

【高橋委員】 おめでとうございます。震災以降多くの団体が立ち上がった後、時を経てだんだんと、なかなか継続していくのは難しい。しかし、非常に重要な事業ということ、思い入れというか、そういった仲間たち、工夫してやられている事業が続いていることは、いま避難者を取り巻く状況は大きく変化していますが、続けているというところは非常に高く評価しています。特に震災から4年半経過して、既に自分たちの地域というのはどこなんだという議論もされている中で、神奈川で定着していらっしゃる方もいるし、その中でニーズも変わってきていると思います。また、福島等の地域にも一部避難の解除がされた後、帰る方、神奈川に残る方等いろんな思い入れがあつての、この神奈川の地にいらっしゃる方を一緒になって支援されるということは、根気もいりますし、避難者の方にとっても非常に重要な事業であるという風に高く評価させていただきます。

そしてまた、つなぐ会というのをあゆむ会さんは作られて、自立的に動いていく会を作られて、より見守っていきたいという発表もありました。こちらも将来、あゆむ会さんが自立的に事業を展開していただくうえでも非常に、このつなぐ会を作られたことも実績としても評価として出ました。

そのうえで、将来の自立というところから考えますと、今回、申請では、人件費が2人から3人と増加の申請があつたのですが、思い入れや将来の自立へのあり方も期待してこの人件費の部分は、3名のところを2名での申請として120万円のカットということでございましたけど将来の自立をより期待した

い。継続的な自立を期待したいというところからの評価でございます。

また、今後においては避難者のニーズも、状況を経るにあたってもつとつと変わってくると思いますので、引き続き、より、その心意気を皆様と共有しながらさまざまな支援団体さんがいらっしゃいますので県の中でとりまとめていただけるような活動も期待して採択という結果になりました。以上です。

● 精神疾患や発達障がいの狭間にいる若者の就学・就労を目指した自立支援（横浜メンタルネット）

【高橋委員】 おめでとうございます。精神疾患や発達障がいの狭間にいる若者ということで、この方たちはどれだけ苦しんでいるかということは、審査会の中でも認識しておりまして、そしてこの事業がそのためにも非常に重要な事業であるということも高く評価しております。一方でこの苦しんでいる狭間にいる方々は、一般的にも増加傾向にあり多くの多様な課題を抱えている一方で、「狭間」というのは制度の狭間という意味なんですが、なかなかそのため自立への支援が届きにくいという現状が続いている中で、この事業の展開というのは根気があるものであるということも踏まえて大事な事業であると評価をしています。一方、それだけに今後事業をやるにあたっては対象者の把握が難しいと思いますし、厳しい状況が今後も続くと思いますけれども、この事業の大事さというのは、私たちも陰ながら応援していますので、事業を立ち上げた信念と今まで培ってきたノウハウによって是非引き続きがんばっていただきたいと思います。文科省がちょっと前に発表した指標でも、全国の公立小中学校の通常のクラスにいる、困っている、課題のある、場合によっては発達障がいの可能性のある子というのが平均6.5%という風に出ていますので、この事業が彼らの将来の選択肢の一つとして希望になることも、加えて期待しています。今回、フォローアップクラスを増設されて、より丁寧な支援をされることや、今まで1か所だった事業展開を3か所に展開していくということで、ぜひ神奈川にそのノウハウを引き続き、より丁寧に広げていっていただきたいと思います。

また、この横展開するときは大事な時期だと思います。その支援の質の補完、向上というのもぜひ、今までもやられていると思いますがその担保というのもぜひお願いしたいと思います。

提案のときに、Q&Aの中でもお伝えしたかと思いますが、今回同時に提案されている多文化共生教育ネットワークかながわさん、また、若者サポートステーションや障がい者の就労支援事業所なども密に連携をとりながら県との協働をうまく活用いただいて、広げていただいて発展していただきたいと思います。

最後に、総合支援法なども厚生労働省が指針を出し、財源は厳しいという状況を出しています。一つ受益者負担というのが事業展開の中で、この辺りも踏まえながら制度設計していくのが大事なのかと思いますので、ぜひその辺りも含めて仕組みとそういったバランスというところを、モデルとして、困っている若者の支援とともに、作っていただきたい。

● 就職弱者の若者へのキャリア支援事業（多文化共生教育ネット）

【小松委員】 継続おめでとうございます。事業1はキャリア支援という事業ですが、昨年もこの場で言わせていただきましたが、定時制高校は必ずしも職業を持っている生徒さんだけではないというような現実があるわけできちっとしたフォローがないとなかなか学校ではできないというのが現状のようですので、皆さんの力を借りて支援をしていかないと、いわゆる就職弱者を生み出してしまうという結果になってしまうのかなと思います。就職弱者というのは、差別も区別もするつもりも全然ありませんが、場合によっては非行に走ってしまうというケースもありうるわけで、こういうことを防ぐうえでもやはり本当に大切な事業だと思います。審査会でも高い評価でした。来年度は学校数も増やすということ、更に充実を図るということ。一層がんばっていただきたいと思えます。

次に事業2の方です。これは、かながわ若者キャリア支援センター事業という名称の提案であります。これに関しては審査会でもいろいろ議論があり、昨年も見送らせていただきましたが、今年も採択は見送りとさせていただくという結論に、非常に残念ではありますが、達しました。事業1で支援した生徒さんが必ずしもうまくいくわけではないという部分、これも現実の話で、そういう生徒さんをフォローしていく事業というのは、ものすごく大切ではありますが、それは、皆さんと同様に審査会でも共通の認識ではあるのですが、残念ながら、「じゃ、何をやるの」というのが見えてこないんですね。昨年の提案のときに実績を踏まえてというような、具体的な内容を、というようなことをたぶんお話したと思うんですが。この4月からの事業なので、実際半年くらいで実績というのは、正直いって厳しい部分はあるかと思いますが、やはり何をやりたいのかというのが、言葉は悪いですが見えてこない。事業として、金額も低くないのでなかなか採択しにくかったということなのです。

かつ、このセンターはどういう形で設置をするのか？ 例えば拠点を立てて、建物を建てるというのはあり得ない話だと思うのですが、それなりの、これくらいの部屋を借りてそこを拠点にしてやるのか、あるいは簡単な事務所を置いてコーディネーターと連絡をとりあいながら派遣をするのか？ 追加で出てきた資料では、申し訳ないがその部分がわからなかった。その部分を明確にして

いただきたいのと、コーディネーターが22人ということ。どういう活動をするのか、どう動いていくのか、それに対して人件費はどうかという部分も見えてこない。

事業の重要さは認識をしております。再度チャレンジしていただければと思います。宜しくお願いします。